

Versiv™ へのアップグレード、その 5 つの理由

タッチパネルによるクイック操作、プロジェクト管理など、一連の効率アップ機能で LAN 配線インフラの試験完了時間を大幅削減！

DSX-8000

- Cat 6A 測定時間 **8 秒**
- 光ファイバー測定時間 **3 秒**
- **タッチパネル**操作
- AXTalk 測定機能**標準装備**
- PoE 配線の検証・評価
- 日本語 ID 入力
- シールド接続性の診断機能
- ProjX 管理機能
- LinkWare Live
- JIS X5150-2016 規格に
対応



JIS X5150-2016 選択メニュー

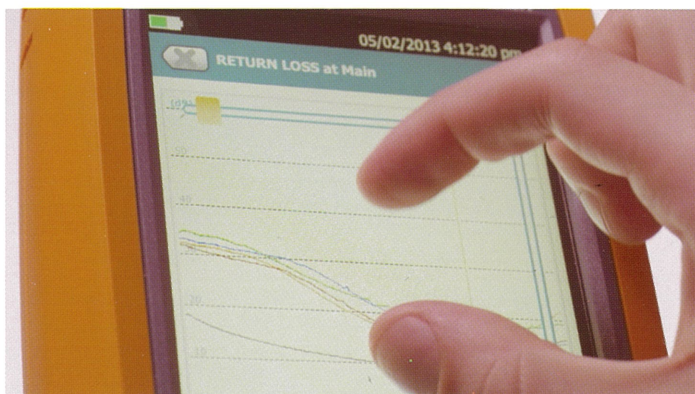


DTX-1800

- Cat 6A 測定時間 **22 秒**
- 光ファイバー測定時間 **12 秒**
- **ボタン**による操作
- AXTalk 測定機能 (**オプション**)
- 新規ファームウェアの開発なし
- 2018 年 3 月まで校正可能
- 保守部品少量



スマートフォン感覚の操作性を実現



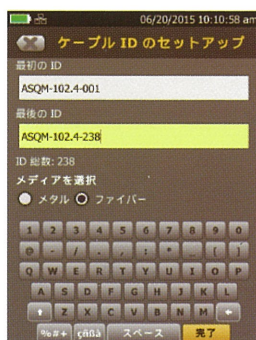
LinkWare™ Live によるクラウド経由での測定データ管理 / 機器設定



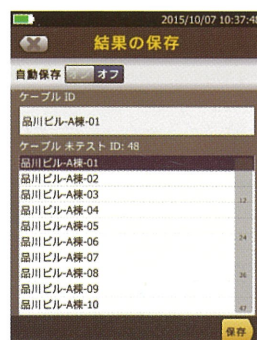
モジュールの交換で様々な測定に対応



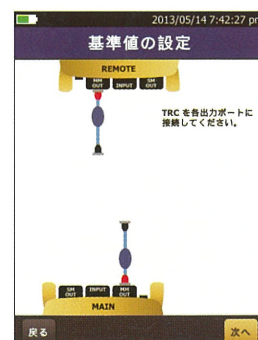
数多くの便利な機能がさらに追加されました！



ソフトキーによる ID 入力



日本語による ID 作成



アニメーションによる操作説明

LAN 配線敷設工事のすべての工程のコスト削減を達成します。

2004 年に市場に投入いたしました DTX ケーブルアナライザーは、幅広いユーザーの皆様のご指示を得て、構内 LAN のメタルおよび光ファイバー配線用に世界で最も普及したケーブル・テスターとして、数十億の配線リンクの認証試験実績を残すことができました。今では伝説として語られるほど、フルーク・ネットワークスの製品は耐久性と信頼性を持つことから、お客様の中には、ほとんど半永久的に使用したいと望まれる方もいらっしゃるかもしれません。しかし残念ながら、将来、それが極めて高くつくことになるかもしれません。

フルーク・ネットワークスの新しい Versiv (バーシブ) 認証試験システムを使用すれば、配線試験作業のすべてのフェーズで、これまで以上にコストを抑え、最終的にシステム検収までの認証試験作業全体の時間を短縮できます。

以下に Versiv へのアップグレードすべき 5 つの理由をご説明します。

1. より迅速なセットアップ

熟練した専門家が到着してから設定をしてもらうのは、時間の無駄です。さらに、作業の途中で間違った設定に気付くことは、多くの損失を招きます。

Versiv の ProjX 管理システムは、セットアップ作業を容易にし、間違いのないものとします。いったん、試験の詳細な設定条件を入力すれば、現場作業員はその中から、作業に応じて正しい試験を選択するだけです。これは特にテスターを複数の現場で使いまわす場合には、大変に役立ちます。また、LinkWare™ Live クラウド・サービスを使えば、テスターをオフィスに持ち帰ることなく、設定を行うこともできます。そして、DTX のようにテスターの矢印キーを操作しながら、試験条件を設定するよりも、スマートフォン同様のユーザー・インターフェースを介して、何倍も速く設定が可能です。

2. 迅速な試験

DTX は、その当時、試験スピードにおいて新記録を打ち立てました。しかし、Versiv は、それよりもさらに速く、Cat 6A で 2 倍、光ファイバー損失試験で 4 倍のスピード・アップを達成しました。

それだけではなく、Versiv は、DTX でできなかった機能により光ファイバー試験を加速化させました。Smart Loop OTDR 機能は、一度に 2 本の光ファイバー OTDR 試験ができ、さらに遠端まで、テスターを移動させることなく双方向の試験を可能にします。また、4 波長モジュールを使えば、シングルモードとマルチモードの光ファイバーが混在する場合にも、別のモジュールを探したり、取り換えたりすることなく試験ができます。しかも、DTX は光ファイバー・コネクタ端面の検査ができませんでしたが、Versiv は、約 1 秒で光ファイバー端面の汚れ具合を評価してくれます。

さらに、バッテリーが切れてしまい、充電のために待機するということは、速やかな作業完了を時には阻害します。DTX の場合には、15 分程、充電に時間が必要でしたが、Versiv の場合では、電源に接続し、充電しながら作業を継続できます。

データの保存に関しては、もうこれからは SD カードを探し回る必要はありません。Versiv は、内部メモリーに 12,000 件のテスト結果を保存できるばかりか、手近にある最大 64 GB の USB メモリー・スティックに保存することもできます。また、試験が不合格になった場合には、DSX は、誰でも容易に理解できる簡潔な表現で、これまで以上に正確に問題をトラブルシューティングできる第 2 世代の診断機能を提供します。これにより、より多くの障害をピンポイントで特定できるため、問題の是正をさらに迅速に行えるようになります。

3. 間違いの減少

設定間違いのために、作業現場に再び呼び戻されるということは採算性を犠牲にするということを意味します。まさに、この間違いをなくすということこそが Versiv が設計された理由です。ところが DTX では、間違ったテスト・リミット値を選択することは、よくあることでした。

このようなことがあると、すべての試験を最初からやり直す必要があります。しかし、Versiv の ProjX 管理システムを使えば、予めそれぞれの作業向けに設定されたテストをただ選択するだけです。また、LinkWare™ Live は、個々の試験レベルまで掘り下げて、それぞれの試験の進捗状況を、モバイル機器を使って把握することが可能です。さらに、予定していない試験が実施されている場合には、それを明示することもできます。

光の基準値の設定については、DTX では複雑な作業でしたが、それが正しく行われなかった場合には、その後のすべての試験が無効となり、作業員はそのことすら知らない可能性があります。しかし、Versiv は、この重要なプロセスを画面上で分かりやすく説明し、テスト基準コードの検証結果を保存することで、まちがった方法で測定が行われた場合のマイナスの損失結果を生じないようにします。上記のような様々な間違いの防止策や警告機能があることから、作業の手戻りは皆無となります。

4. より速やかなレポート作成

Versiv は、DTX と同じレポート作成用ソフトウェアを使用しているため、新たに操作方法を覚える時間は必要ありません。

また、オフィスに戻って、テスターやメモリーカードをあれこれと探し回る代わりに、Versiv から LinkWare™ Live にテスト結果をアップロードしておけば、テスターすべてから、所定の作業フォルダーに自動的に試験結果が間違いなく割り振られます。もうこれからは、必要な試験結果が見当たらず、あれこれと探し回ることはありません。さらに、Versiv は DTX に比べ 48 倍のテスト結果の保存が可能です。そして、保存制限数にとらわれない外部保存メモリーとして USB メモリーやクラウド・サービスが利用できます。

5. 将来に備えた拡張性

Versiv に投資するということは、Cat 5 ～ Cat 8 すべてに渡って新しいビジネスに備えるということをも意味します。Versiv は、DTX ではできない TCL (横方向変換損) や抵抗値の不均衡測定機能にも対応しています。また、同軸および業界規格あるいは産業用イーサネットのパッチコードの双方向での認証試験ができます。さらに、シングルモードの光ファイバー試験では、測定距離は 10 倍以上長くなりました。しかも、測定部分をモジュラー化したことで、新たなテスター本体を購入することなく、必要な機能を手に入れることができます。

Versiv と DTX の機能の比較をご覧ください。

	Versiv	DTX
1. 迅速なセットアップ		
ProjX 管理システム	✓	
ユーザー・インターフェース	タッチ・パネル	押しボタン
文字入力	フル・キーボード	ボタン入力
LinkWare Live によるリモートからのセットアップ	✓	
2. より迅速な試験		
Cat 6A / Class Ea 試験時間	8 秒 (DSX-8000) 10 秒 (DSX-5000)	22 秒
新世代のメタル試験診断機能	✓	
光ファイバー損失測定時間	3 秒	12 秒
OTDR テスト時間 (1 波長当り)	2 秒	15 秒
MM / SM 両波長の光損失測定ジュール	✓	
2 本の光ファイバーの損失測定結果を同時表示	✓	
双方向損失試験における IN/OUT 入れ替えの自動検知	✓	
OTDR 双方向試験の時間を半分に削減 (Smart Loop OTDR*)	✓	
EventMap™ (イベントマップ) 光ファイバー障害診断	✓	
自動光ファイバー端面検査 (IEC 61300-3-35 準拠)	1 秒	
バッテリー充電のための待機時間	不要	15 分
LinkWare Live と最後に "同期" した場所の把握*2	✓	
3. 設定や測定ミスの削減		
LinkWare Live によるスマートフォン経由の作業進捗状況の確認	✓	
LinkWare Live により、規格値、ID 等の誤設定を回避	✓	
LinkWare Live による校正切れ警告	✓	
シールドの接続整合性試験 (Cat 8 2G 準拠)	✓	
測定用光ファイバー性能の自動検証	✓	
アニメーション表示による光損失試験時の基準値設定ガイド	✓	
負の損失結果に対する不合格判定	✓	
4. より迅速になったレポート作成		
Linkware PC ケーブル・テスト管理ソフトウェア	✓	✓
内部保存 (プロット・データ付 Cat 6A 試験)	12,000 件	250 件
保存オプション	USB メモリー: 64 GB LinkWare Live : 制限なし	SD/MMC: 2 GB 最大
LinkWare Live を使った、場所を選ばないデータのアップロードと結果の統合	✓	
光ファイバー端面検査レポート機能	✓	
日本語による ID 入力	✓	
5. 充実したその他の機能		
カテゴリ 8 認証	✓	
メタルの校正に出す際の手順	モジュールのみの送付	一式での送付
標準装備のエイリアン・クロストーク試験	✓	
横方向変換損測定	✓	
抵抗値不平衡測定	✓	
双方向パッチコード認証試験	✓	
同軸ケーブル認証試験 (ANSI/TIA-568-C.4 準拠)	✓	
メタル・ケーブル測定の最大周波数	2000 MHz	600 MHz
RJ45-to-M12 パッチコード認証試験	✓	
最大光ファイバー損失試験距離 (MM/SM)	12 km / 130 km	5 km / 10 km
最大 OTDR 試験距離 (MM/SM)	35 km / 130 km	6 km / 20 km

* 1 特許出願中
* 2 プロジェクト管理データをテスターにダウンロードおよびアセット管理が可能なプロフェッショナル・バージョンは無償試用期間中。

仕様は予告なく変更されることがあります。

